

日本ロールシャッハ学会第14回大会

ワークショップのご案内

2010年5月1日

- I. 日 時 2010年10月29日(金) 12時~17時30分 (受付:11時より12時まで)
- II. 会 場 帝塚山学院大学 (泉ヶ丘キャンパス) 人間科学部
〒590-0113 大阪府堺市南区晴美台4-2-2 (第1号通信の交通アクセスを参照)

III. 受講コース

1. 形式・構造解析(阪大法)による事例検討

講師 石橋 正浩(大阪教育大学)

阪大法は難解だと思われるようです。実際に難解な部分ではありますが、阪大法にはサイン・アプローチや内容分析とは異なるロールシャッハ法の面白さが詰まっています。このワークショップでは、他のスクールをプロパーとする方にも形式・構造解析の面白さを体験していただき、少しでも理解を深めていただければと思います。

前半で形式・構造解析のエッセンスを簡潔に紹介し、後半で事例検討をおこないたいと思います。事例提供をご希望の方は、逐語に近いプロトコルと事例の概要をご準備ください。参加者の依拠するスクールは問いませんが、『ロールシャッハ検査法』と、できれば『ロールシャッハ・スコアリング』は当日ご準備ください。

2. スコアリングから解釈まで ー主にクロッパー法によるー

講師 氏原 寛(帝塚山学院大学)

ロールシャッハ・テストの反応の意味は、スコアリングによってすべてとらえることができません。このワークショップでは、反応のもつスコアしきれない面をどのように解釈に組み込むかを中心に考えます。もちろんスコアリングの重要性を否定するものではありません。コンピューター化になじまない、このテスト独自の面白みを味わっていただければと思っています。

反応数20~30のプロトコルを募ります。ロケーションチャートをつけていただければ幸いです。5時間かけてみっちり考えていきたいです。

3. 片口法によるロールシャッハ法の記号化と解釈: 事例検討を通して

講師 小川 俊樹(筑波大学)

今回、氏原大会会長から表題のようなワークショップの依頼を受けました。片口先生ご自身の言葉によれば、「私自身は、今日まで『片口法』と称したことはない。しかし、いつしか歳月がたつうちに、片口法=クロッパー法という誤った図式ができあがっていることに気づいた」(1993)と述べ、小川による心理検査の使用頻度調査結果(1993)や藤岡・松岡によるワークブックの刊行を機に、「本書から私も『片口法』と呼ぶことにする」としています。本ワークショップでは、最初に片口法の特徴をお話した後、事例を通して片口法のスコアリングや解釈について考えていきたいと思っています。当日はいくつかのグループに分けて提出された事例を検討し、その後全体討論を進めるという形式で行う予定ですが、片口法で記号化した事例を募集しますので、関心のある方は是非ともお申し出下さい。

4. 感情・認知・思考過程・コミュニケーション様式に注目するロールシャッハ法の読み方

ー名大法を中心にー

講師 高橋 昇(人間環境大学)

ロールシャッハ法は様々な学派に分かれて発展し、それぞれの特色を見せていますが、名大法は2つの点に注目しました。1つは反応に含まれる感情であり、「2人が仲良くダンスをしている」という反応と「2人が怒って殴り合っている」の感情的付加の違いです。もう1つは認知・思考過程やコミュニケーションのあり方であり、「コウモリかチョウか・・・わかりませんねえ」という反応と「コウモリが襲ってくる!」の相違です。

従来の形式分析からはみ出していたこれらの特徴は、また極めてその人らしさを醸し出すサインです。それらについて興味がある方は、各派を問わず歓迎いたします。各派を問わず事例を募集します。

5. 包括システムによるロールシャッハ・テストの概要と解釈の基礎

講師 高橋 依子 (甲子園大学)

いくつかの学派に分かれているロールシャッハ・テストを、実証的な裏付けをもとに統一しようとしている包括システムについて、臨床事例をもとに解説します。まず包括システムの記号化の体系について解説し、ついで実際の事例について、パーソナリティの特徴を明らかにして、心理療法にどのようにつないでいくかを検討したいと思います。どの学派の方法であっても到達点は同じなのですが、包括システムでは、一人ひとりのプロトコルに応じて解釈の手順を明確にできる部分があります。対象者の言語表現と、それらを記号化によって分類した量的側面とを統合して、解釈していく方法を解説します。その際には、客観的な資料との比較による解釈が必要であり、日本人の平均値と比較しながら考えていきたいと思います。

6. 力動的解釈 — アセスメントから心理療法へ —

講師 深津 千賀子 (大妻女子大学)

心理アセスメントにおいてはクライアントの病態水準と共に、現在の訴えや問題について、そのクライアントについて統合的に理解し、どのように心理臨床的アプローチをすることが適切かを検討することが求められる。本ワークショップでは①心理検査と心理療法を連続性をもって理解できる精神力動論の基礎について学び、②ロールシャッハ場面での被検者の体験とその反応過程を理解し、③事例を通して、解釈過程の実際を共有したいと思います。なお、力動的なアセスメントのためには、構造化の水準の異なる心理検査とのテスト・バッテリーも重要な意味をもつので、SCT とのバッテリーでの事例提供者を募集します。

IV. ワークショップ参加の申し込み要領

1. 同封のワークショップ参加申込書（往復はがき）に必要事項をご記入の上、切手を貼って投函してください。
2. 同封の払込取扱票通信欄の該当する金額に印を付け、必要事項をご記入の上で2010年8月31日（火）までにお振込み下さい（期日までにお支払いがない場合は、当日参加料金を受付でお支払いください）。
3. ワークショップに事例提供をご希望の方は参加申込はがきのワークショップ事例提供希望に印を付けて送ってください。後日、事務局より申込書をお送りいたしますので、必要事項をご記入の上、ご返送ください。その際の封筒は各自ご用意ください。事例提供の申し込み期限は2010年6月30日（消印有効）です。
4. 非会員（一般）は、原則として保健・医療・福祉・教育・司法等の領域で心理臨床などの実務経験を持つ方とさせていただきます。ただし、院生・学生の非会員の方はこの限りではありませんが、守秘義務の責任を負うことが条件です。なお、院生・学生の方は、当日に学生証をご提示いただきます。

V. ワークショップ参加費

| ワークショップ参加費 | 予約 | 当日 |
|---------------|--------|--------|
| 本学会会員 | 5,000円 | 6,000円 |
| 非会員（一般） | 6,000円 | 7,000円 |
| 院生・学生（会員・非会員） | 3,000円 | 4,000円 |

* 本案内に同封してある払込取扱票でお振り込みください。ゆうちょ銀行に備え付けの用紙を使用するときは、振込金額の明細を必ずお書きください。

VI. ワークショップに関する連絡先

〒590-0113 大阪府堺市南区晴美台4-2-2

帝塚山学院大学 人間科学部事務局内 日本ロールシャッハ学会 第14回大会事務局

FAX : 072-292-2135

E-mail : ror2010@tezuka-gu.net

郵便振替口座名 第14回ロールシャッハ学会準備委員会

郵便振替口座番号 00940-9-226342